

名誉会員追悼



故 名誉会員 Morris Cohen 君

日本鉄鋼協会名誉会員、マサチューセッツ工科大学 (MIT) 名誉教授 Morris Cohen 氏は2005年5月27日にマサチューセッツ州Swampscottのご自宅で逝去されました。享年93歳でした。

氏は、1911年11月27日マサチューセッツ州Chelseaに生まれ、1929年にMIT冶金学科に入学され1933年に学部卒業1936年にSc.D.の学位を受けられました。その後直ちにMITの助教授となられ1941年に準教授1946年に物理冶金教授に就任され、1962年材料科学工学Ford教授1975年Institute教授1982年Institute名誉教授を歴任されました。そして1987年に退官されるまで半世紀にわたり鉄鋼を中心とした物理冶金学および材料科学工学の分野における教育と研究に従事されました。

氏の研究業績は、状態図、熱力学、拡散、固相変態、急速凝固、変形と破壊など多岐にわたり、その論文と著書は286を数えます。その中でもマルテンサイト変態を中心とした鉄鋼の種々の相変態と鉄鋼の強化機構に関して数多くの研究成果を挙げられ、近代における高強度鋼の開発と基盤構築に先導的な役割を果たされました。また、マルテンサイト変態に関する国際会議 (ICOMAT) などの主要な国際会議を立ち上げ、研究の輪を世界に広げると共に材料研究を通じた国際友好に力を注がれました。

氏はASM会長をはじめとして多くの学協会の大要職を歴任され斯界の発展にも尽力されましたが、米国科学院における材料研究の必要性に関する調査活動は特筆されます。氏が設立され議長を務められた米国科学院材料科学工学調査委員会の最初の報告書である「Materials and Man's Needs」は1974年に提出されました。材料科学工学の4つの主要素としてStructure、Properties、Processing、Performanceを挙げた上で、これら4要素と基礎科学および社会的要請との関係について言及され、4要素をリンクして捉えることによって材料科学工学が新たな力ある研究分野となり社会に大きな実りをもたらすことを、学界のみならず政財界に訴えられました。材料科学工学 (Materials Science and Engineering) の黎明期における象徴的な調査報告書となったのです。

このように教育者、研究者、政治家として卓越した活動をされた先生は、米国National Medal of Science (1977年)と京都賞 (1987年)を材料科学研究者として初めて受けられるとともに、数々の栄誉を内外から受けておられます。本会では、1971年「材料科学特に物理冶金学の進歩への貢献」に対し、名誉会員に推挙されました。

先生は、年に一度研究室の同僚や学生を自宅に招いてパーティを催されました。そして初めて参加した人々は一様に、ご自宅の壁に隙間なく飾られた米国印象派の絵画コレクションに歓声を上げ、心づくしの料理も忘れて名画に魅入っていたと聞いております。

鋼の強さに魅せられた研究者、物理冶金学の巨人と形容される先生の御遺徳は、明解な文章で構成された名論文名著の数々、また指導を受けた多くの人々を通して、これからも長く受け継がれてゆくはずです。

ここに名誉会員 Morris Cohen 氏の御偉業を偲び、会員一同心からご冥福をお祈り致します。

平成17年7月

日本鉄鋼協会 会長 奥村直樹